

# 戦争が駆け足でやって来る！（その6）

## 戦争に良い戦争は絶対がない。すべて人殺しです。

「戦争に良い戦争は絶対がない。すべて人殺しです。殺さなければ殺される。」「最後の力出し戦争に反対する行動起こしたい。」（瀬戸内寂聴さん 93才 6月18日国会前抗議行動でのスピーチ）

そして戦場で生き残った兵士たちも、精神疾患や自殺に追い込まれる。米国ではイラク戦争に派兵された兵士の1/3が精神疾患や脳障害におかされている。またイラクに派遣された自衛隊員は、「非戦闘地域」にしか送り出されなかったのにもかかわらず、イラクで29人・インド洋で25人自殺している。本来、人間には、同類を殺すことには強烈な抵抗感がある。普通の状態では「人を殺せない」。しかし、戦場では殺さなければ殺される状況に追い込まれる。そして多くの敵を殺した兵士は英雄となる。まさに戦場では「一人殺せば犯罪者、100万人殺せば英雄」の世界となる。しかもイラクやアフガンさらにガザでは、「テロリスト掃討」の名のもとに、多くの女性や子供などの普通の市民も殺されている。

## 「人間性の除去」が、世界最強の兵士をつくった

ところで戦前・戦後を通じて世界最強の兵士は旧日本軍である。「体が傷ついても、心は傷つかない。感情麻痺の強さがあった。」と言われている。それは「上官の命令はこれ、天皇の命令である」という言葉に「条件反射的に従う」ように、暴力的に徹底的に訓練されたことによる。そして兵士は『天皇を中心とする神の国・日本』が、劣等民族だと位置づけられた朝鮮人や中国人、その他の東南アジア諸国人を支配してもいいんだ、当然なんだ」という教育を子供の頃から徹底的に叩き込まれる。こうして「本来の人間性を失い、自分の頭で考えることをやめ、上官の命令のままに動く」世界最強の兵士が誕生した。

## 「人の生死とか戦争に」…大げさなんだよ！安倍のヤジ

そして安倍晋三は辻本議員の「いま人の生死とか戦争について話してます」という発言時に「大げさなんだよ」とヤジを飛ばした。また「自衛隊員は安全な場所にしか行かない」「後方支援活動中に攻撃されたら、避難する」などと答弁している。実際の戦場では、後方支援中の部隊が一番狙われやすい。ましてや敵は強い米兵より、経験の浅い自衛隊員を狙うだろう。攻撃されて敵に背中を見せれば、集中攻撃を受け部隊は全滅するだろう。安倍は、こうしたリアルな戦場も想定せずに、米国の手兵として自衛隊員を戦場に送り出そうとしている。ましてや憲法違反を犯してまで。

こんなチャンピラのような男によって、日本が「戦争を仕掛ける国」に変わっていいのだろうか？